



【配信日】2012年8月13日

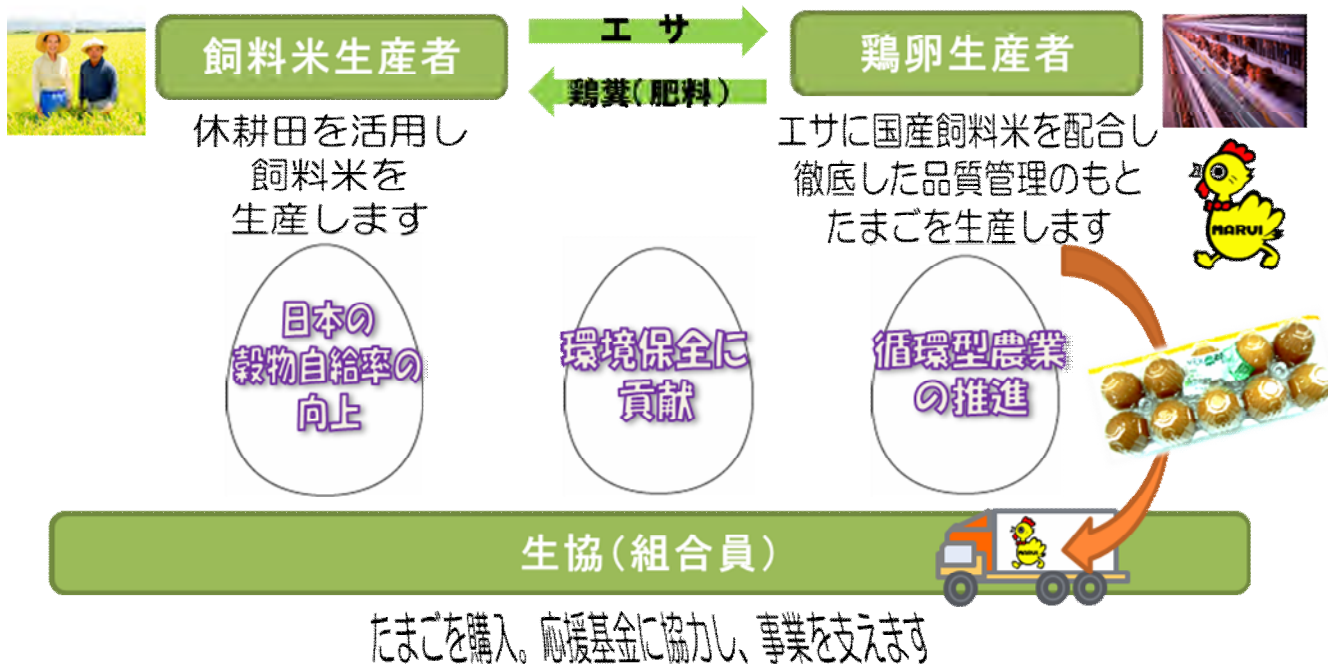
生協は「循環型農業」を支援します
～飼料米をエサにした「たまご」の販売～

マルイ元気米たまご

いずみ市民生協は、2011年10月より飼料米を給餌した「たまご（6個入）」の販売を開始しました。今年度は、国産飼料米を生産する62の農家・団体と鶏卵生産のマルイ農協とともに、販売をさらに拡大していきます。（9月より10個入を販売）

また、飼料米のとりくみが安定して推進できるよう、応援基金を設立します。

飼料米生産者・鶏卵生産者・生協が協力することにより
食と農業の循環をめざします。



独自に配合した新鮮なエサに国産飼料米の玄米を**10%**配合しています。サルモネラワクチン接種済み。鶏を**450日**齢までの若い鶏に限定。卵黄色は、通常の卵と変わりません。



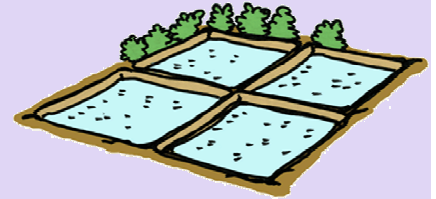
『マルイ元気米たまご』のとりくみの特徴

休耕田を活用し、国産飼料米を栽培・生産（約620トン）します。

休耕田を活用し、稲を栽培することで、水田の荒廃を防ぐことができます。
さらに、国内の穀物自給率のアップにつながります。

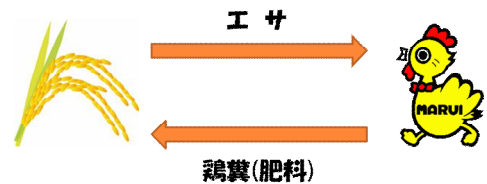
鹿児島県 出水市内	24 農家
鹿児島県 種子島地区	5 農家
鹿児島県 薩摩川内市甕島地区	1 団体
熊本県 八代市内	30 農家・2 団体

品種：夢あおば、モミロマン



循環型の環境づくりに貢献します。

飼料米を生産する水田では、マルイ農協で排出された鶏糞から製造された有機肥料（マルイ有機株製造）を使用しています。



「1パック当たり5円の応援基金」を設立

1パック当たり5円が応援基金として積み立て、飼料米の保管費などに活用します。

生協組合員が「たまご」を利用することで、基金が積み立てられます。
この基金が、飼料米のとりくみを持続可能なものに少しでも役立てられることを願っています。

応援基金の活用用途

- ・ 飼料米を低温流通させるための保管費、搬送費などに活用します。
- ・ 想定数量 7,000 パック/週 × 4 週 × 5 円 = 140,000 円

飼料米を鶏のエサとして運用にあたり、主要なコストとして「管理費（蔵賃）や物流費」が発生しますが、基金はこの費用にあてられます。



【発行】大阪いずみ市民生活協同組合 理事長 藤井 克裕
 【本件に関する問い合わせ先】 〒590-0075 大阪府堺市堺区南花田口町2-2-15
 理事会事務局 広報担当 高野(たかの) 陽一
 (電話) 072-232-5100 (FAX) 072-225-2517
 (Email) y_takano@izumi.coop